

介護・看護に活かせる!?「触れる」ケア 「タクティールケアⅠコース」

タクティールケアとは「触れる」ことを主体としたタッチケアの一種。ツボや筋肉に刺激を与えるいわゆるマッサージとは違い、全体をやわらかく包み込み、ゆっくりとなでることがケアの基本となる。「触れる」コミュニケーションを通して、患者の不安・苦痛が和らぐ効果や眠りにつきやすくなる効果があり、刺激が少ないため浮腫のあるがんターミナル患者への緩和ケアや BPSD(認知症の周辺症状)のケアとしても実施することができるという。

2009 年 1 月 19 日(月)、20 日(火)に行なわれた「タクティールケアⅠコース」の 2 日目を取材した。1 日目にケア理論の学習と手・背中 of ケアの実技演習を行ない、2 日目は足のケアの実技演習と全体の復習、緩和ケア理論の確認が行なわれた。実技演習では参加者同士 2 人 1 組になって施術しあうことで、お互いの確かな指摘ができ、学習がはかどっているようだった。

当日講師を務めたシルヴィアホーム認定インストラクターの高橋朋子氏は、タクティールケアを実施するうえで重要なものとして「ゆっくり」と「ぴったり」の適度な感覚を挙げた。体験した感想としては、まさに力を加えず「なでる」ということが中心のケアで、あたた



かさがじんわりと伝わってくるものだった。

日本で唯一講習を実施している(株)日本スウェーデン福祉研究所によると、2006 年 6 月より開始した講習にはこれまで 2500 人が参加。参加者は 50%を占める介護職のほか、看護師も 30%を占める。同研究所によると、今後は介護士・看護師などの専門職だけでなく、市民参加型の体験講習も実施し、家族などにも技術を広めていくことも検討しているという。

●問い合わせ先

(株)日本スウェーデン福祉研究所

TEL : 0120-294-019 <http://jsoci.jp/>